

★ 病理組織診検査 ★												
	項目	業務時間	検体の種類と量	採取容器添加物	臨床情報	検査 所要時間	生物学的 基準範囲	検体採取方法	検体 搬送条件	検体受入 不可基準	ラベル 記載内容	検体保管条 件
1	病理組織検査	8:30～17:06	【検体の種類】 ・ホルマリン固定した組織 ・未固定骨髓液 ・未固定体液（胸水・腹水・心嚢液・その他） 【検体量】 スライド標本が作製できる量	・各種サイズのタッパ®（10%中性緩衝ホルマリン：緑色） ・各種サイズのホルマリンビン（10%中性緩衝ホルマリン：透明） ・腎生検用保存液(PBS) ・セルブロック用容器（添加物なし） ※細菌検査と検体を共有する場合は滅菌カップを使用する ・サイトリッチレッド液	-	生検材料：2～5日 手術材料：約5日 ※再固定・脱脂・脱灰・免疫染色などがある場合は報告が遅れる場合があります。	-	・採取後速やかに、検体に対して余裕のあるサイズのホルマリン容器に浸漬する ・微小組織はろ紙等に付着させ検体ビンに入れる ・真の断端側に糸等で目印を付け、分かるようにする ・腎生検は採取後速やかに、腎生検用保存液(PBS)に入れ、各検査用に取り分け後、10%中性緩衝ホルマリンに入れる	・生の検体の場合は即時搬送する ・対面授受	・長時間放置（乾燥）された組織 ・凍結した検体 ・ホルマリン以外の溶液に浸けられていた検体（例えば生理食塩水） ・採取部位の記載がない検体 ・依頼書に所見の記載がないもの ・依頼書の採取部位とラベルの採取部位や患者氏名が一致しないもの	患者名、材料名 あるいは 部位か番号 ※ラベルが出力されない場合は手書きも可	・各種ホルマリン容器にて室温保存
2	術中迅速病理組織検査	8:30～17:06	【検体の種類】 生組織 【検体量】 スライド標本が作製できる量	※検体および血液成分等が漏れたり浸み出さないものに入れる ・各種サイズの蓋付き容器 ・袋	-	1個あたり約10分	-	・微小組織はろ紙等に付着させ検体ビンに入れる。 ・真の断端側に糸等で目印を付け、分かるようにする	・即時搬送 ・対面授受 ・気送管システム（エアースhower）利用の場合、カプセル内にスポンジを入れ検体ビンが破損しないよう注意する	・長時間放置（乾燥）された組織 ・ホルマリン固定された組織 ・骨・歯等の硬組織 ・微小検体 ・依頼書に所見の記載がないもの ・依頼書の採取部位とラベルの採取部位や患者氏名が一致しないもの ・採取法が「術中迅速」以外のもの	患者名、材料名 あるいは 部位か番号 ※ラベルが出力されない場合は手書きも可	-
3	免疫組織化学検査	8:30～17:06	パラフィン組織切片	スライドガラス	-	病理医がオーダーした翌実働日	-	-	-	-	-	-